

2023年度 高等学院同窓会学術研究奨励金  
研究成果報告書概要（WEB公開用）高等学院長  
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [ 田島 大和 ]

学年・組・番号 [ 3年 B組 18番 ]

研究課題： 福島県檜枝岐村における住民アンケートによる人口回帰の要因分析

(英文) Factor Analysis of Population Regression by Resident Questionnaire in Hinoemata Village, Fukushima Prefecture

## 研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

人口減少が顕著である山村地域の中でも、減少率が緩慢である福島県檜枝岐村に着目し、その理由を考察することで、今後の人口流出対策の方向性を提示することを目的とする。その方法として、若年層Uターン者へのアンケート調査、檜枝岐小中学校の児童・生徒へのアンケート調査による定量分析と、ふくしまぐらし相談センター移住相談員・檜枝岐村役場総務課職員・元檜枝岐村教育委員会職員・檜枝岐中学校教頭・千葉之家花駒座座長・村内の若年層UIJターン者・村内の高齢者へのヒアリング調査による定性分析を用いる。

## 研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

緩慢な人口減少は、一定数のUターン人口移動と近年全国的に増加傾向のIターン人口移動による、近隣町村より多い転入者数や、近隣町村より高い出生率が要因であると判明した。その中でも、Uターン人口移動に着目し、若年層Uターン者へのアンケート調査から、人口回帰の要因を分析した結果、地域愛着との相関が見られた。そのため、檜枝岐村立小学校・中学生の児童・生徒へのアンケート調査から、地域愛着の形成要因を共分散構造分析によって分析した。その結果、小学生では継続的な地域社会との関わり、中学生では地域活動への参加がもたらす地元住民との緊密な関わりによって徐々に醸成される地域愛着が中学生までに定住意向を形成していくことが判明した。また、これらを引き起こすマクロ的な要因として相互扶助・一視同仁の精神を取り上げた。上記の知見を踏まえて、総合的な学習の時間における地域学習の在り方や、村内での習い事の在り方を提案した。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 田島 大和

研究分担者

担当教諭 本木弘悌

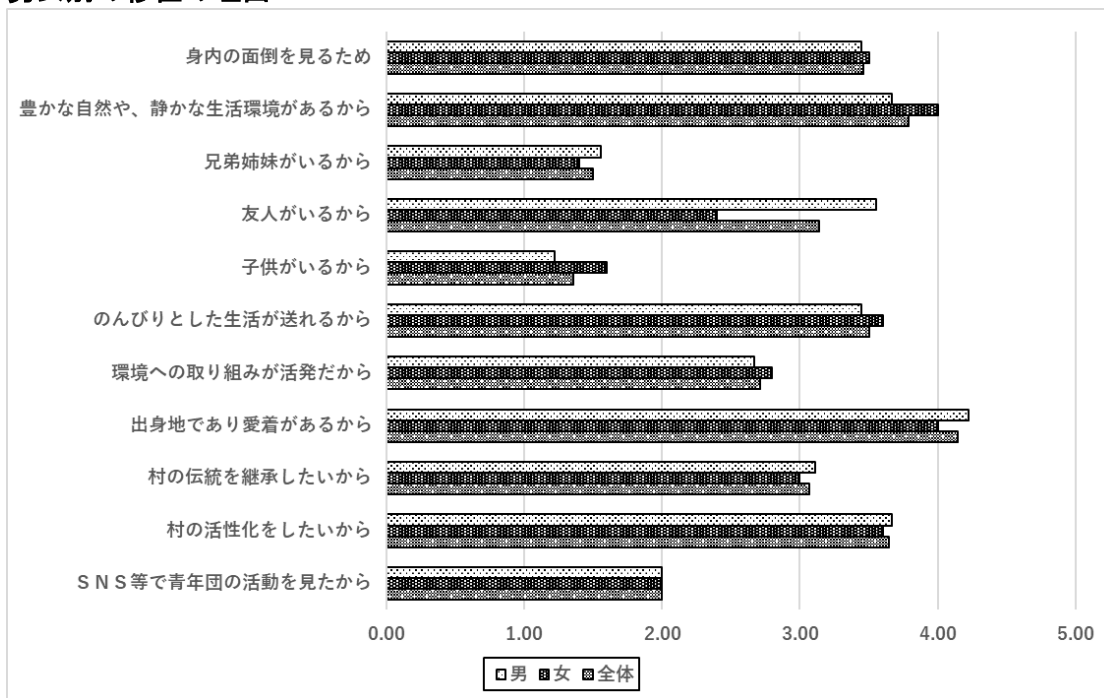
(受給額： 30,000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します  
(次のページに続きます)

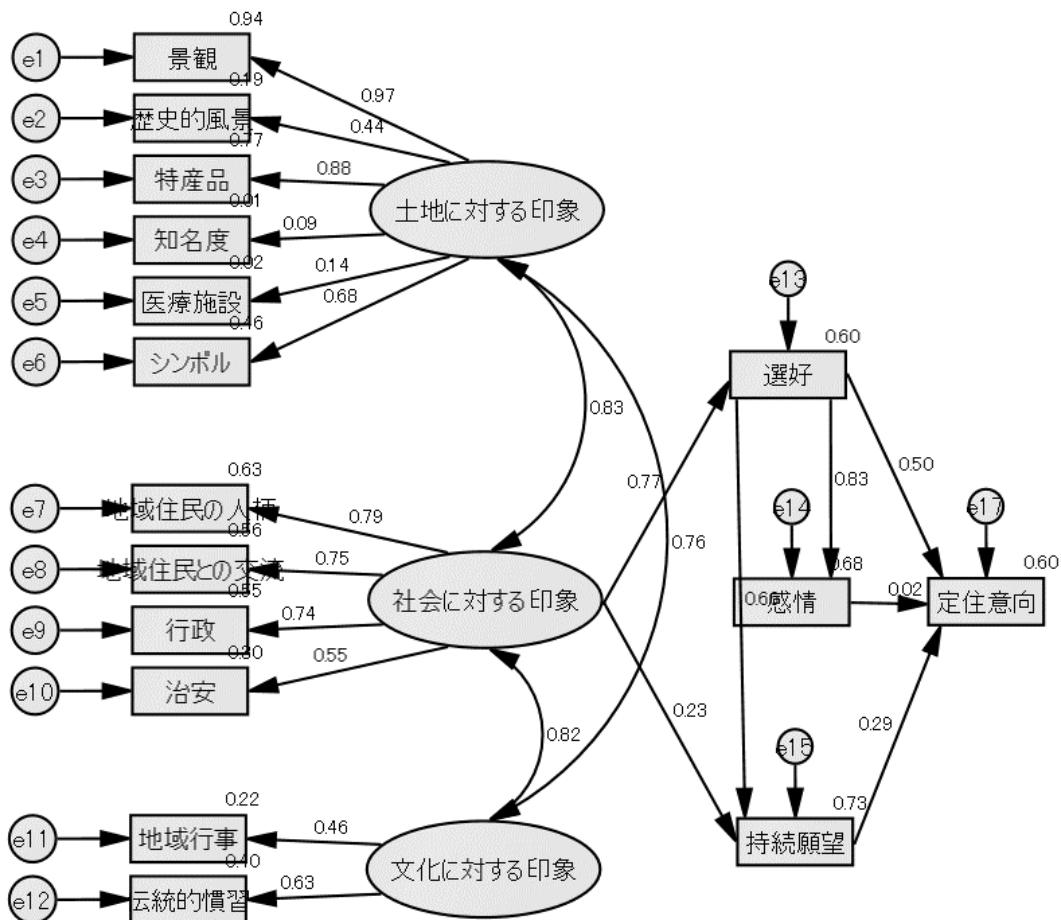
**研究成果写真：**

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

**男女別の移住の理由**



**中学生における地域愛着の形成要因の分析**



GFI=.871 AGFI=.823

以上